

1 インターネットや携帯電話を安全に利用するために



1 インターネットとは

コンピュータとコンピュータをつないで、情報の交換（通信）を行う仕組みをコンピュータネットワーク（以後、ネットワーク）といいます。このネットワークが世界中に広がり、情報のやりとりができるようになったものがインターネットという仕組みです。インターネットに接続しているコンピュータどうし、世界中からアクセスしたり、電子メールを送ったりと、お互いに情報をやりとりすることができます。

また、今日わたしたちは、携帯電話によって情報を得たりメールをやりとりしたりすることをあたりまえのように行っています。この仕組みもインターネットによって作られています。

インターネットの利点は全世界の情報を素早く取得できることです。たとえば、インターネットに接続されている研究機関や大学などへアクセスし情報を得ることができます。本や音楽CDなどの商品を、インターネットを通じて調べたり、買ったりできます。

また、インターネットを利用して学習をすることもできます。たとえば、自宅にいながら大学の授業を受けることもできます。また、英会話や資格取得のための学習コースを利用して学ぶこともできます。

もう一つの利点は、インターネットに接続できる環境を



利用して、自分から情報を発信することができる点です。自分で調べたことや趣味の内容を発信すること、インターネットオークションに参加することなどができます。

インターネットは、まさに仮想的（バーチャル）な社会であり、これからも様々なことができるようになるでしょう。

2 インターネットがわたしたちの心身に与える影響

インターネットや携帯電話は、便利な反面、使いすぎると次のような悪影響があるといわれています。

人と直接合って話をしたり、意見を交わしたりすることが面倒になったり、怖くなったりして、人間関係が希薄になる。

実際に自分の目で見たり触れたりして感じるという体験が少なくなり、日常生活にインターネットや携帯電話がないと、もの足りなく感じるようになる。

現実には起こっていることとインターネットの世界で起こっていること（仮想的なこと）の区別がつかなくなり、犯罪の加害者や被害者になる。

インターネットや携帯電話を深夜まで使う習慣から、日中、眠くなったり、疲れがたまったりして、学習に集中できなくなる。



インターネットや携帯電話を利用する時には次のことに注意しましょう。

家族や友達と直接会って話をすることを大切にしましょう。

インターネットや携帯電話をあまり長い時間使い続けないようにしましょう。

また、子どもたちに、次のようなことを感じる場合は、早めに先生や家族、相談機関に相談するよう指導してください。

自分の気持ちの中ではやめようと思っても、どうしても使いすぎてしまうと感じている。

インターネットや携帯電話の使いすぎのため、授業中眠かったり、勉強に集中できなかったりする。また、成績が下がった。

友達や家族とうまくコミュニケーションができなくて、気が付くと一人でインターネットや携帯電話を使っている。



3 インターネットでの事件・事故

インターネットの世界では、次のようなさまざまな事件や事故が起こっています。

事件1 インターネットの掲示板で、「アイドルグループ『 』のコンサートチケット売ります。ほしい人は次の携帯電話にお電話ください。」という書き込みがありました。

A子さんは、チケット売り場で並んでも買えなかったチケットなので、すぐに電話をして友達の分を含め2枚のチケットを注文し、相手先の銀行の口座に代金2万円を振り込みました。しかし、当日になってもチケットは送られてきませんでした。

しばらくして、チケットを販売すると言って代金をだまし取っていた高校生2人が、詐欺の容疑で逮捕されたことを知りました。

事件2 Aさんは、自宅のパソコンでホームページを見ていたら、いつの間にか画面に渦巻き模様が出たり、動作が遅くなったりしました。しかし、ワープロなどを使っている時には特に問題がなかったので、そのまま、宿題のレポートを仕上げ、フロッピーディスクにデータを保存して、学校に持って行き提出しました。しばらくして、「Aさんからのメールで家のパソコンがウイルスに感染し大切なデータが消えてしまった。」と友達のBさんからいわれました。また、先生からは、「レポートのファイルにウイルスが感染していたのでもう一度提出しなさい。」といわれました。そこでAさんは、そのファイルをもう一度見ようと自宅でコンピュータを使おうと思いましたが、今度はデスクトップ画面が表示されませんでした。

事件3 A君は、同じ中学に通う友達のB君がホームページを公開していることを知りました。あるとき、A君はB君のホームページの掲示板にアクセスし、ちょっとしたいたずらから、「おまえは、みんなから嫌われています。学校には来るな。」と書き込みました。次の日からB君は学校で何が起こるか心配で学校に来ることができなくなりました。A君は悩みましたが、学校では掲示板に書き込んだ犯人を捜しているようなので、怖くなり謝ることができなくなってしまいました。

その他にも、インターネットでは、さまざまな事件や事故が起こっています。中には、殺人や覚醒剤に関係したような凶悪な犯罪につながる事件も起こっています。

インターネットの世界では、事件や事故に巻き込まれるといった被害者になる危険がつきまっています。場合によっては、相手の心を傷つけたり、犯罪の共犯者として加害者になったりしてしまうかもしれません。

4 インターネットを安全に使うために

交通安全のために、事故の被害者や加害者にならないよう、交通ルールやマナーを守ることが大切です。インターネットを安全に利用する場合にも、利用上のルールとマナーを知り、守ることが大切です。

インターネットの世界での安全を交通安全と比較してみましょう。

<知っている>

自転車や自動車を安全に運転するには、交通ルールや車の仕組み、事故になったときの対応のしかたを知っている必要があります。たとえば、「赤信号は止まる。」というルールを知らないとすれば、事故を起こしてしまうでしょう。また、事故を起こしたときに、「知らなかった。」ではすまないことはわかると思います。

同じように、インターネットの世界に関する知識を知らないために事故や事件に巻き込まれたり、いつの間にか自分が加害者になったりしてしまうことがあります。たとえば、他人の名前や住所をむやみに人に教えることは、「個人情報保護法」という法律に違反することになります。しかし、この法律を知らないと、悪いことをしているという意識もなく、個人の情報を教えてしまうこともあるでしょう。



<できる>

乗り物を安全に運転するにはルールを知っているだけでなく、自由に運転ができたり安全点検ができたりしないと事故につながります。たとえば、自動車運転の初心者がブレーキのかけ方を知らずに運転すると、大きな事故を起こすことになるでしょう。情報社会でも、コンピュータの基本操作ができること、コンピュータウイルスなどからコンピュータを守れることなどの基本的な技能を身に付けておかなければなりません。

<相手を思いやる心>

自動車を運転するには、交通ルールの試験や運転技能の試験に合格して免許をとらなければなりません。したがって、免許を持っている人は「知っている」と「できる」について基本的な力を持っているといえます。しかし、実際には、無謀運転や、暴走行為をする人もいることも事実です。ルールやマナーをわざと守らない人もいることも事実です。

インターネットの世界にも、残念ながら、ルールやマナーを守らず犯罪のわなをしかけたり、人の心を傷つけたりする人もいます。無謀運転に巻き込まれ、「もらい事故」にあわないためには、一人一人が周囲を注意しながら運転しなくてはならないように、インターネットを利用する上でもどんな危険なわながあるのかを知って、事件や事故に巻き込まれないようにしましょう。

また、多くの人たちは、日常生活で家族や友達を思いやり、ルールやマナーを守りながら生活していることと思います。インターネットの世界でも、相手の気持ちを考えて、迷惑になることや犯罪になることを決してしないようにしましょう。

	交通安全	インターネットの安全
知っている	交通ルール・法規 車の構造・機能 事故になったときの対応など	情報社会に関係した法規・ルールなど (著作権・個人情報保護など) コンピュータやネットワークの仕組みと働き 事故発生時の対応
できる	安全に運転ができる 点検や修理ができる 救急時の対応ができる	コンピュータが使える セキュリティの確保ができる 事故発生時の対応ができる
相手を思いやる心	ルールやマナーを守ろうとする 周囲に対する思いやり 意図的に守らない人もいる (暴走行為・無謀運転など)	ルールやマナーを守ろうとする 他の人に対する思いやり 意図的に守らない人もいる (不正アクセス、誹謗中傷書き込み、不正な取引、詐欺など)

インターネットの世界は、顔や名前がわからず、交通安全とは違うところもあります。しかし、そのようなバーチャルな世界だからこそルールやマナーを守ることが大切です。また、自分自身の心や体に与える影響を考えながら利用する必要があります。

「インターネットや携帯電話を使うのは簡単だから勉強しなくてもいいや。」と考えずに、一つ一つ望ましい使い方を学んでいきましょう。

